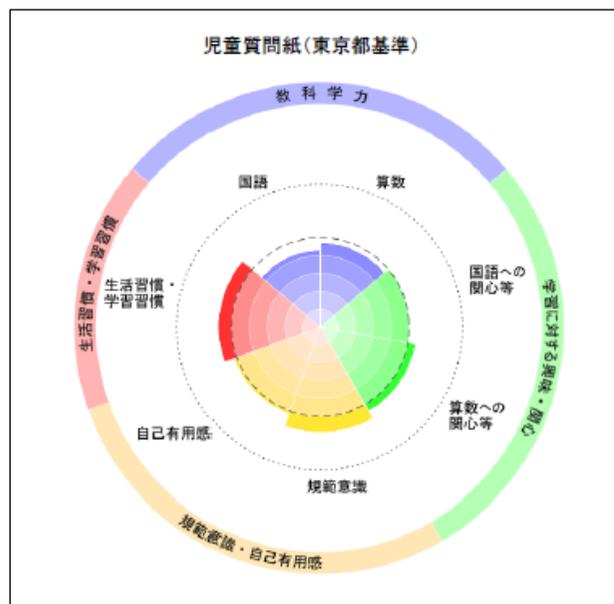
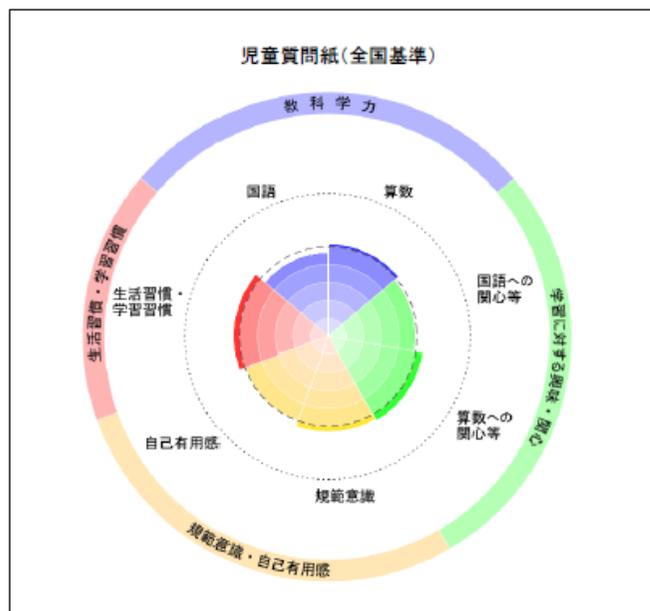


令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（第6学年実施）

【本校の結果】



【チャート図について】

このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」の結果を表したものである。

左が全国基準との比較、右が東京都基準との比較である。どちらも、点線が基準を表している。

本校の特徴は、算数への関心等、規範意識、生活習慣・学習習慣は、どちらの基準も上回っている。しかし、国語の学力が、どちらの基準も下回る結果となった。

【家庭・地域への働きかけ】

*年度当初に、「家庭学習のヒント」や「家庭学習の手引き」を保護者に配布・周知し、児童の学習に対する意識が、学校だけでなく家庭でも高まるようにする。

*学期ごとに1週間、生活リズムウィークを設定し、「生活リズムカード」を活用して、1日の起床・就寝時刻、食事、家庭学習、挨拶等、児童と一緒に振り返る機会を設ける。

【現状】

〈国語〉全国正答率を上回ったものは、14問中4問である。下回ったものは、14問中8問である。その中でも正答率が低かったものは、文の関係（主語述語の関係、修飾語など）である。文章を書く問題については、やや下回ったが、過去に比べると書くことができるようになっていた。4年生からの授業で、書くことを多く取り入れてきた成果と思われる。

〈算数〉全国正答率を上回ったものは、16問中8問であり、「数と計算」領域の正答が多かった。下回ったものは、16問中8問である。その中でも正答率が低かったものは、速さ、図形を組み合わせたものからの求積、割合・単位量である。全体としては、東京都基準よりやや低いが、全国基準と比較するとほぼ同じである。

【授業改善のポイント】

*漢字を書くことを定着させるため、文を書くときには、既習の漢字は必ず使うように指導する。

*主語・述語の関係や修飾語の使い方を正しく理解できるようにするため、文章の読み取りの学習等でも、意図的に繰り返し指導する。

*図形の構成についての理解を深めるため、問題を解く際には、見方・考え方を働かせ、既習事項を使って自分の言葉で説明する機会を設ける。

*割合や単位量の学習では、数直線の指導を通して、数量の関係を正しく理解できるようにする。

*算数に関しては、タブレットや東京ベーシックドリル等を活用して、学習したことの定着を図る。（チャレンジタイム等での個別指導）

